

会 報

No.67 (2000年11月)

目 次

◆会員の皆様へ ―会長からの報告―	1
◆第11期 臨時評議員会報告	2
◆第12回 評議員選挙について	2
◆第23回 (2000年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その3)	4
◆第23回総会のご案内	5
◆第1回 日本分子生物学会春季シンポジウムのご案内	5
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について	6
○山田科学振興財団2001年度研究援助候補推薦要項	6
◆日本進化学会の設立について	7
◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	8
○第15回「大学と科学」公開シンポジウム『昆虫から学ぶ生きる知恵』	8
○千里ライフサイエンスセミナー ブレインサイエンスシリーズ第13回	8
○第14回国際発生生物学会大会 (第34回日本発生生物学会大会)	8

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://MBSJ.biol.kobe-u.ac.jp/>

◆会員の皆様へ 一会長からの報告一

柳田 充弘

本年の第23回日本分子生物学会年会は、杉野明雄年会長、品川日出夫副年会長のお世話で12月13日より神戸国際展示場、神戸国際会議場およびポートピアホテルで行われます。会員の皆様には奮ってご参加ください。昨年の福岡大会よりまた一段と演題数なども増えており、依然、日本分子生物学会は成長過程にあります。なお、2001年は山本正幸会員が、2002年は藤井義明会員が年会長として首都圏で年会を開催する予定です。

そのことに関連して懸案でありました、評議員の定員数を20人から30人に増加する案が先だっのの評議員会で決定しました（評議員会の決定事項を参照してみてください）。これにより学会運営の足腰が強くなり、多様な活動や外部からの要請にも充分に対応できるのではないかと期待します。年齢層と研究分野の広がりのある学会ですので、そのことをもより良く反映するためにも評議員数の増加が必要という判断がなされました。会員の皆様にあつては、研究費申請の審査委員などの推薦が評議員（会）によって行われることなどもぜひ考慮していただき、より深い関心を、まもなく行われます次期評議員選挙に持っていただくようお願いする次第です。

日本分子生物学会の年会は大きくなり、現状では限られた大都市でしか行えないようになりました。そこで、特別春季シンポジウムをそれ以外の地域でもできるように、また一つの会場でわが国の分子生物学を代表するような発表をまとめて聞いてみたい、という二つの要望を入れまして、来年、第1回春季シンポジウムを岩手県の盛岡市で小川英行岩手看護短期大学長に主催していただくことになりました。参加者は200～450人程度で、泊まり込み形式で行われます。発表者は、最近話題の論文を評価の高い国際雑誌に発表した会員の方々を中心に構成することになっていますが、若手も出席できるように、ポスター発表も行う予定です。さらに開催周辺地区の会員が多く参加できるような配慮もすることになっています。小川英行オーガナイザーからの紹介をあわせてお読みください。来年5月に予定されていますこの新しいシンポジウムの試みが、限られた大都市以外の会員の方々にとって新たな学会活動参加の可能性を広げるものとして、大いに期待しています。なお、2002年の第2回は、広島大学の宮川都吉会員を中心に行うことで現在準備中です。

次に、学会の行う賞などの推薦について、現在、花岡文雄評議員を中心に新しい案をまとめていただいています。事情をごく簡単に報告しておきます。現在、会長宛に毎年いくつかの財団などから受賞候補者の推薦がありますが、この件については学会細則に決まりがなく、多くの場合、何も対応していなかった経過があります。本会は素晴らしい業績を挙げた会員を多数擁しておりますが、会員の受賞推薦については、そういうわけで現在まで積極的な対応をできてきませんでした。しかし、学会の今後の発展のためにも、受賞者の推薦にもっと力を入れる必要があるように感じています。前回の評議員会の議論では、学会として前もって推薦候補者リストを定めておいて、各財団等からの推薦の要請に対しては、会長が関係評議員の意見も考慮してリストの中から推薦する、という案が出てきており、このような案などを中心に、現在審議しているところです。

本学会と社会、行政、マスコミなどとの関係についてもひとこと申し上げておきたいと思います。最近、日本の社会ではバイオとかゲノムとかいう略称でわれわれの研究分野に対する関心が深まってきました。産業的にも、日本分子生物学会がカバーする研究分野に日本の将来がかかっている、という認識はかなり広まりつつあります。また、研究費の支出についても、一昔前なら驚くほどの巨額なものになるプロジェクトも多数実施されるようになりました。会員の中には、本学会はもっと社会との接点を強く持つべきであり、政府の研究費支出についても学会として方向付けをするべくいろいろと発言するべき、必要なら官公庁や政治家、マスコミ等に対してもいわゆる広報活動、ロビー活動もすべきだ、という意見をお持ちの方も多くなりました。私も、個人的にはそのようなご意見に学会として積極的に対応すべきなのかも知れないと、昨今は思わざるを得ない状況であると感じております。

しかしながら、本会の歴史を考えると今直ちに動くのは難しく、もう少し時間をかけるべきかと思えます。つまり、本会は現在任意団体であり、初期から最近まで、年会の開催事業の一点に絞って活動をしてきた経過があります。年会の成功が今日のわが国の分子生物学の隆盛をもたらしたことは疑う余地がありません。次に、学会が深くコミットした活動は、富澤編集長や松原、大石前会長の多大なご尽力によって発刊に至った国際誌「Genes to Cells」です。ご存じのように現在、会員ならだれでもオンラインで「Genes to Cells」に無料でアクセスできますし、内容的にも本誌の声価は高まりつつあります。本誌の存在は、本会が国際的な役割を果たす上でのシンボリックな存在でもあります。そういう理由で、本誌がより高い評価を得られるように学会はバックアップし、また会員の皆様のご協力を要請することが、学会にとって非常に大切な活動になっているのです。

そういうわけで、学会は徐々に活動の巾を広げてきました。本会のやり方の伝統は、身の程を知って、出来そうなことを着実にやる特徴を持っているのです。やるからには素晴らしいことをやろう、これが本会の歴史的な活動経過です。そういうわけで、学会を外部に対してより開いて、色々積極的に発言し社会的に関わるのかどうか、会員には賛成、反対等多様な意見があることを承知しています。このことは、次期の会長、評議員（会）にぜひお考えいただきたいと願っております。米国や英国、欧州では分子生物学の仲間が個人や学会を基礎に生命倫理などの社会的問題に深くコミットして活動をしたり、政府の抛出する予算にもいろいろな注文を出しております。しかし、一方で、今までの本会の成功は、そのようなことはなるべく会員の個人的活動におまかせする、という方針が良かったのかもしれませんが。そのような論点も考慮していただき、次期評議員選挙には、ぜひとも関心をもっていただきたくお願いする次第です。

◆日本分子生物学会 第11期臨時評議員会報告

日 時：2000年6月24日(土) 14:00~17:00

場 所：ホテル京阪京都 桜の間

出席者：柳田充弘（会長）、池田日出男、大塚栄子、近藤寿人、杉野明雄、辻本賀英、長田重一、
本庶 佑、松原謙一、吉川 寛、
西田栄介（庶務幹事）、鍋島陽一（編集幹事）、磯野克己（会計幹事）、花岡文雄（集会幹事）

協議および報告事項：

1. 学会細則の改正

- 1) 評議員を増員することに関して協議の結果、現行20名から30名に増員することにした。
- 2) 広報幹事1名を新設することとした。今年度は、磯野会計幹事に兼務していただくこととなった。

2. 春季シンポジウムに関する件

第1回春季シンポジウムを2001年5月10日(木)~12日(土)に盛岡市で開催する予定であることが了承された。

3. 学会ホームページについて

磯野克己会計幹事から学会のホームページアクセス状況が紹介され、2000年3月5日以前のアクセス件数のトータルは107,539件、2000年3月5日以降は、42,850件あったとの報告がされた。

◆日本分子生物学会 第12回評議員選挙について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって、第12回評議員選挙を行います。そのため、西田栄介（京都大学大学院）、宮田愛彦（京都大学大学院）、福田 真（京都大学大学院）の3氏が選挙管理委員として会長より委嘱されました。

次いで選挙管理委員3名の打合せを経て、具体的には次のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願いいたします。

記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は、2000年8月31日までに入会手続きを行った正会員とします。同封の「会員名簿」より10名を選んで、その氏名を投票用紙にご記入下さい。投票用紙を同封の小封筒（投票用紙在中と印刷）に入れ、封をした後、同封の送付用封筒（選挙管理委員会御中と印刷）に入れて、ご自分の住所、所属および氏名を記入のうえご送付下さい。

投票締切日：2000年12月1日（金）必着

開票予定日：2000年12月8日（金）

当選者の決定：得票数の多い順に30名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。

なお、次の場合には投票または被記名者が無効となりますので、ご注意下さい。

- 1) 投票用紙に11名以上連記した場合。ただし10名以下の場合には有効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒に記入されていないとき。
- 3) 日本分子生物学会細則第7条3項により、以下の方は連続して評議員になることができませんので、今回は記名しないで下さい。なお、この方々に投票のあった場合には、その方に関してのみ、無効といたします。

石浜 明、大塚栄子、近藤寿人、杉野明雄、谷口維紹、辻本賀英、長田重一、松原謙一、柳田充弘、吉川 寛

2000年11月1日

日本分子生物学会選挙管理委員会

西田 栄介

宮田 愛彦

福田 真

〈参 考〉

会 則（抜すい）

第10条 本会には、会長1名、評議員若干名、会計監査2名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する諸事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第11条 評議員は正会員の中から正会員の投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員の任期は2年とする。

細 則（抜すい）

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。
選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。

3. 評議員は連続して3回選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に30名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名単記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高得票者を選出する。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

◆第23回（2000年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

第23回日本分子生物学会年会は、2000年12月13日（水）から16日（土）までの4日間、神戸国際展示場、神戸国際会議場およびポートピアホテルで開催されます。奮ってご参加ください。

本年度年会の概要は次の通りです。詳細は、同封のプログラムを参照してください。

1. 会場：神戸国際展示場、神戸国際会議場、ポートピアホテル（神戸市中央区港島中町6丁目）
2. 会期：2000年12月13日（水）～16日（土）
3. 参加受付：2000年12月13日（水）午前8時10分より
当日参加費：正会員 10,000円、学生会員 7,000円、
非会員 11,000円
（各々の建物に設けております）
4. 発表について：
シンポジウム：12月13日（水）～15日（金）午後4時～午後7時
24テーマ（演題数 151件）
ワークショップ：12月13日（水）～16日（土）午前9時30分～12時
36テーマ（演題数 287件）
ポスター発表：12月13日（水）～16日（土）午前9時～午後7時 演題数 3,010題
（説明・討論 午後1時～3時30分）
5. バイオテクノロジーセミナー：
12月13日（水）～16日（土）午後1時15分～3時15分
6. 岡崎令治メモリアルレクチャー：12月13日（水）、14日（木）、16日（土）午後12時10分から1時
講演者：岡崎恒子（名大名誉教授、藤田保衛大）
長田重一（阪大・院医）
中西重忠（京大・院医）
7. 講演要旨集は、11月下旬に発行を予定しております。
8. 年会期間中の宿泊、JR券・航空券等の取扱いは下記にご連絡下さい。
〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-19 日土地堂島ビル
Fax：(06)6345-0910 Tel：(06)6345-9515
9. 連絡先：〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階 学会センター関西内

第23回日本分子生物学会年会 事務局

電話(06)6873-2301 FAX(06)6873-2300 E-mail : bunshi23@bcasj.or.jp

なお、年會会期中の関連諸會議については、会場に余裕がありますので、上記までお問い合わせください。會議室は、スクール形式で30名（シアター形式で50名程度）の他、口の字型で20名程度が教室あります。ただし、慣例により会場費は無料ですが、食事・飲み物代等は會議側で負担していただきます。

◆第23回總會のご案内

第23回年會の第3日目に、日本分子生物学会第23回總會を、下記の要領により開催いたしますので、多くの會員のご出席をお願いいたします。

(会長 柳田 充弘)

記

日 時：2000年12月15日（金）午後12時10分～12時45分

場 所：神戸國際會議場 メインホール（1階；C会場）

（ご欠席の會員はこの會報に添付されている委任状をご提出ください）

◆第1回日本分子生物学会春季シンポジウムのご案内

日本分子生物学会では、新しい試みとして「春季シンポジウム」を2001年度から開催することになりました。その開催趣旨と現在予定している計画の概略をご案内します。皆様方のご協力と多数の参加をお願いいたします。

〈開催趣旨〉最近の研究には、広い研究領域にまたがった知識や技術などが必要となっています。その機運が、分子生物学会の話題提供を増大させている一因と考えられます。一方、それぞれの研究分野は、ますますその専門化が進み、専門以外の人々が十分な理解を持って議論に参加ができなくなっているのも事実です。この矛盾を少しでも解消し、我が国の分子生物学分野の研究の一層の進展を図ることを目的とし、それぞれの年に、「選定した研究分野とその周辺研究分野を含めて、研究の進展を総合的に考える機会を持つ」ということになりました。

その最初の試みとして、第1回春季シンポジウムを企画しました。シンポジウムは1会場で行い、講演者としては、1999年度から2000年度にかけて、最先端の研究を発表した方々をお願いし、それらの研究と関連分野のポスター発表を基に、議論することを考えています。参加者は200～400人くらいと考え、宿泊場所も会場と同じホテルで、いつでも議論ができるように計画しています。

また、最近では、学会の開催地が開催施設の関係から、少数の大都市に限定されるようになってきていますが、この規模のシンポジウムであれば、小都市でも十分に開催できるので、年會の開けない都市でも行うことができます。分子生物学研究が広い地域に広がり、その地域の活性化と振興にも繋がるようにと、開催都市での市民講座を開くことも考えています。

これらのことを念頭に、第1回のシンポジウムは「DNAの働きを中心とした細胞の基本的なメカニズム」をテーマとして選び、大綱を次のように計画しました。會を成功させるために、皆様方のご意見を聞かせいただければ幸いです。

1. シンポジウムタイトル：分子生物学の躍動
2. 開 催 時 期：2001年5月10日（木）午後3時頃～同12日（土）正午頃

3. 会場・宿泊場所：つなぎ温泉 ホテル紫苑
〒020-0055 岩手県盛岡市繫字湯の館74番2号
Tel：(019)689-2288 Fax：(019)689-2320
会場：ホテル内の大会議室。
宿泊：同ホテルの和室。食事：全員一緒。
4. 中心研究分野：DNA複製、組換え、修復、転写開始制御、染色体分配、細胞分裂（減数分裂）、細胞周期とそのチェックポイント、アポトーシス機構等々。
5. 参加予定人数：200人～400人（原則として全員泊まり込み）
6. 発表形式：1. 講師20～25名による口頭研究発表と質疑応答。
2. 参加者によるポスター発表。
7. オーガナイザー：小川英行（岩手看護短期大学）、小川智子（国立遺伝学研究所）
8. 交通（予定）：空路：福岡、大阪、名古屋～花巻空港間に割引券
JR：団体割引
チャーターバス：花巻空港～会場、JR盛岡駅～会場。
9. エクスカーション：盛岡近郊、平泉/中尊寺、花巻/遠野等を用意。
10. 今後の予定：12月頃までに講師を決定し、2001年1月から参加者の募集を始める予定。
11. お問い合わせ・連絡先：〒020-0151 岩手県岩手郡滝沢村大釜字千が窪14-1
岩手看護短期大学 小川英行
E-mail：hogawa@iwate-nurse.ac.jp
Fax：(019)687-5268 Tel：(019)687-3864

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 65に一覧として掲載しております。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

ただし山田科学振興財団研究援助のみ、申請書類は(財)日本学会事務センター・日本分子生物学会係り (Fax: (03)5814-5820) へご請求下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物
 - 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
 - 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
 - 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

日本分子生物学会 選考委員長 花岡文雄

〒565-0871 吹田市山田丘1-3 大阪大学細胞生体工学センター FAX：(06) 6877-9382

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

○山田科学振興財団2001年度研究援助候補推薦要項

1. 援助の趣旨及び内容

- 1) 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助をいたします。実用指向研究は援助の対

象としません。

- 2) 援助額は1件当たり100～500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦および本財団関係者からの個人推薦の中から選考いたします。
- 3) 援助金を給与に充てることはできませんが、特に財団が指定した場合を除き、他の用途は自由です。
- 4) 援助金の使用期限は、贈呈した年度およびその次の年度の計2年間とします。

2. 推薦方法

- 1) 推薦者：本財団が依頼した学(協)会の代表者
- 2) 推薦件数：4件以内
- 3) 推薦手続：推薦者は、以下の書類を整え、ご送付ください。
 - ①所定の推薦書用紙またはその写しに必要事項を記入したもの 4部
 - ②添付書類(研学('01)―5/8ページ参照)

3. 記載上の注意

- 1) 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加してください。
- 2) 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込みをすることについての承諾を得てください。

4. 推薦締切期日

本財団に推薦書が到着する締切期日は2001年3月30日です。

5. 選考方法

選考委員会において選考の上、理事会が決定します。

6. 選考結果の通知

2001年7月末までに推薦者および代表研究者等宛て文書にて通知します。

7. 援助金の贈呈

選考結果の通知後適時銀行振込にて贈呈いたします。

8. 推薦書送付先および連絡先

財団法人 山田科学振興財団 (Yamada Science Foundation)

〒544-8666 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

Tel : (06)6757-3311 (代表)

9. 研究の成果および会計の報告

援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出および研究交歓会での発表をしていただきます。

10. 付 記

- 1) 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得てください。
- 2) 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人山田科学振興財団、Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類にあつてはその別刷1部、また著書の類にあつてはその1部をご寄贈願います。
- 3) ご提出いただきました推薦書および添付書類は、お返しいたしません。

◆日本進化学会の設立について

日本進化学会(会長:大沢省三氏)が設立されました。興味のある方は同学会のホームページをごらん下さい(<http://www.kuba.co.jp/shinka/>)。

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第15回「大学と科学」公開シンポジウム『昆虫から学ぶ生きる知恵』

開催日時：2000年12月2日（土）・3日（日）
場 所：神戸国際会議場
主 催：第15回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
後 援：文部省/国立情報学研究所
日本学術振興会/放送大学/経済団体連合会
日本動物学会/日本蚕糸学会
日本衛生動物学会/日本農芸化学会
日本生化学会/日本応用動物昆虫学会
日本分子生物学会/日本昆虫学会/日本生態学会
日本発生生物学会/日本比較内分泌学会
日本比較生理生化学会/日本鱗翅学会
日本農薬学会

申込方法：ハガキ、FAX、またはE-mailにて①シンポジウム名「昆虫から学ぶ生きる知恵」②氏名③住所（自宅か勤務先を明記）④職業（勤務先の職務を明記）をご記入になり、お申込みください。
聴講費：無料です。聴講希望者が定員になり次第、受付を終了させていただきます。
申 込 先：〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-19
ミズノビル4F 中日本装備㈱内
第15回「大学と科学」公開シンポジウム
「昆虫から学ぶ生きる知恵」事務局
Tel：(052)322-1700 Fax：(052)322-1760
E-mail：symposium@sobe.co.jp
ホームページ：http://www.kuba.co.jp/

○千里ライフサイエンスセミナー プレインサイエンスシリーズ 第13回 「神経相互接着ダイナミクスとその異常」

日 時：2000年12月12日（火）10：00～17：00
場 所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
ライフホール
（地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ）
（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）
主 催：財団法人千里ライフサイエンス振興財団
コーディネーター：塩坂貞夫（奈良先端大）
遠山正彌（阪大・院医）

プログラム：

1. シナプス活動性と接着構造
田中秀和（阪大・院医）
2. 神経/グリア細胞での神経接着分子を介したクロストーク
伊藤康一（都臨床研）
3. 神経分化と再生における細胞接着因子ギセリンの働き
平 英一（阪大・院医）
4. RAGE を介した癌転移のメカニズム
田口明彦（国立大阪南病院）
5. ダウン症精神遅滞候補遺伝子 DSCAM の解析
山川和弘（理研・脳科学総研セ）

6. Po 蛋白と遺伝子異常
早川 清（山形大・医）
受講料：（講演要旨集含む）
会 員（大学、官公庁、賛助会員）：6,000円
非 会 員：8,000円
学 生：3,000円
定 員：200名

申込方法：①氏名、勤務先、所属、〒住所、電話、Fax 番号を明記の上、郵便、Fax または E-mail で下記宛お申込み下さい。②事務局より受付の通知を返送いたしますので、記載した振込先口座に参加費をお振込みください。③入金確認後、（通常2週間以内）領収書兼参加証をお届けいたします。
申 込 先：千里ライフサイエンス振興財団セミナー係
〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
Tel：(06)6873-2001
Fax：(06)6873-2002
E-mail：info-lsf@senri-lc.co.jp

○第14回国際発生生物学会大会 （第34回日本発生生物学会大会）

日 時：2001年7月8日（日）～7月12日（木）
会 場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）
会 頭：竹市雅俊（京大）

特別講演

Friedrich Bonhoeffer (Tubingen)
Sean Carroll (Madison)
Michael Freeling (Berkeley)
Elizabeth Robertson (Boston)
Masatoshi Takeichi (Kyoto)

シンポジウム

Evolution of the body plan

Embryo early patterning
Organizing activity in embryogenesis
Signaling in organogenesis
Neural patterning
Wiring the neural network
Development of behavior
Functional genomics in developmental biology
Polarizing cell architecture in organogenesis
Shaping and regenerating organs
Creation of cell heterogeneity
Breaking the body symmetry
Differentiation of sexes
Germ cells and gametogenesis

Patterning and transcription factors
Problems of aging

ワークショップ

Frontiers of bioimaging
Emerging genetic technology in developmental biology
Pattern generation in development: Theory and practice
Body organization in plants
Development of appendages
Development of metamerism
Stem cell and tissue engineering
Molecular medicine and development
Development under environmental effects

特別セッション

Historical synthesis of developmental biology

ポスター演題申込締切：2001年1月15日（月）

問合せ先：〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14

（近畿地方発明センター内）

（株）コングレ

Tel : (075)752-0888 Fax : (075)762-2304

参加申し込み、プログラムなどについての詳細は <http://www.congre.co.jp/icdb/> をご覧ください。

新入会用 Web site URL : <http://bunshi.bcasj.or.jp/>

日本分子生物学会 会報

年 3 回刊行

第67号 (2000年11月)

発 行 : 日本分子生物学会 庶務幹事

製 作 : 学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所